

青谿偶題

溪山一幅好圖
風光千古勝情
早年已謝塵緣
獨立永守幽貞
澹々遠村雨色
潺潺前溪水聲
幽人佇立良久
此間有情無情

青谿偶題

溪山は一幅の好圖
風光は千古の勝情
早年にして已に塵縁を謝し
獨り立ち永く幽貞を守る
澹々として遠村は雨色
潺潺として前溪の水聲
幽人佇立するはやや久し
此の間情有り情無し

青溪のこと

溪山は一枚のよい絵だ
周りは永遠のよい景色
早くから世の中の関わりから離れ
一人静かに自分の志を守ってきた
淡々として遠くの村に降る雨
さらさらと流れる谷川の音
世を離れここに住んで長くなった
此の間の思いはいろいろだ

漫題

還屋幾千山
翫山未厭山
牀頭空壁上
又搬畫中山

漫題

屋をめぐつて幾千の山
山を翫び未だ山を厭わず
牀頭空壁の上
又搬す畫中の山

あれこれ

家を取りまくたさんの山
山と過ごし未だ山を嫌わず
枕元の壁の上に
また移す絵の中の山を

松風洞

高向樹邊開小
々中終日只松風
外間人事君休語
老子近來耳病聾

松風洞

高き樹邊に向い小洞を開く
洞中は終日只松風のみ
外間の人事君語るを休め
老子は近來耳は聾を病む

松風洞

高い樹に向い小洞を作り
洞中は一日松風が吹く
世間の事など君たち議論を止めよ
年取った私は耳が悪いから

姪盛之助について

京都松尾山中で一人で修業しているとき、姪の盛之助が来た。
草庵25歳、盛之助12歳。盛之助は献身的に草庵の生活を助けた。

送姪盛歸但馬

兼呈小島兄伯輿

遠來久伴讀書房
今日還尋舊路行
行遇同人如問我
應言兀坐夜焚香

姪盛之助但馬に帰るを送りあわせて友人小島兄伯輿に呈す

遠來久しく伴う讀書房
日還り尋ねて舊路行く
行きて同人に逢い我を問
わば應に言うべし
兀坐して夜は香を焚いて
いると

癸卯夏送姪盛歸山陰

年來埋迹市塵間
一日悵然吾欲還
須去山陰探得報
白雲深處有佳山

癸卯の年の夏盛之助が山陰に帰るのを送る

年來迹を埋めて市塵の間
一日うらやましく帰りたいくなる
山陰を去つて来てからには
たくさん得なければならぬ
白雲ある所には佳山がある

言葉・語句

千古〓センコ 永久 勝情〓すぐれた景色

塵縁〓ジンエン 世の中の関わり合い 幽貞〓奥深くしとやか
澹〓タン 静か 潺々〓センセン 水のさらさらと流れるさま
幽人〓ひっそりと暮らす人 佇立〓チョウリツ たたずむ
良久〓ヤヤヒサシ 少し長い時間が経過して

漫〓きままに なんとなく 還〓かえす かえるめぐる
翫〓ガン もてあそぶ 牀頭〓ショウトウ 寢床の辺り
搬〓ハン運ぶ うつす 畫〓画

向〓ムカウ に対して 洞〓ドウ 外事〓世間の事
老子〓ロウシ 老人の自称 近来〓キンライ 近ごろ

應〓マサニ……スベシ ほ

姪盛〓草庵の甥になる 通稱池田盛之助

久伴〓久しい間

小島兄伯輿〓コジマケイハクヨ 名は駟^し 字は伯輿 号は省齊
如〓もし

年來〓数年来 長年

迹〓昔の人が行ったあと

市塵〓市中